

わたしたちに今できること ディベートのまとめ (未完成)

平成 23 年 9 月 3 日会議
平成 23 年 9 月 7 日作成

立正大学 B 班×橘花祭
南三陸町入谷公民館にて

発表方法

今回、被災者の方々からお話を聞き、被災地にてボランティアを経験した私たち学生が被災地に対し今何ができるのかについて、4つのグループに分かれ話し合い模造紙にまとめ、被災地やボランティア団体の方々の前で発表を行った。

ボランティア内容

台風により、本来予定していた町でのボランティアができなくなったため、南三陸町にて急きょ受け入れていただいた。津波から逃れた公共施設である入谷公民館前の畑（ふるさと農園）にて震災後、「希望の花」として植えられていたひまわりの刈り取り作業を行った。

発表内容—模造紙から

A 班 「わたしたちに今できること」

(感想)

- 今回の体験をして感じた事を多くの人に伝えたい。A さん
- がれき撤去だけでなくボランティアとしての活動は無限にあると思えた。B さん
- 予想以上に復旧が進んでいた。C さん
- 地元の人たちの気持ちの強さを知った。D さん
→自転車のようにこぎつづけないと倒れる。

↓↓

(実践)

- まわりの人たちに伝える!
→学園祭、facebook、twitter など
- 災害シミュレーション。
- 募金活動。
- 被災地のモノを買う。

B 班

・ボランティアの参加動機

- ・ボランティア活動をやりたかった
- ・自分の目で被災地の現状を見たかった

・活動を通して、感じたこと

- ・被災地の現状
- ・被災地のニーズに答える
- ・コミュニケーションの重要性
- ・現地の人への感謝

・今後私達ができること

- ・被災地の現状を伝える
- ・情報収集
- ・長期的なボランティア活動

C班 今、できることは？

- ・ボランティアの経験とか見たことを周りに伝える
→大学を使って講演会やHPに宣伝など。
- ・災害に備え、危機感をもちつづける。
- ・この震災を忘れない。

~~~~~

- ・トイレや風呂などの日常に不可欠なものが使えなくなった時に、冷静に落ち着いて対応すべきだと感じた。 Eさん
- ・大きな災害に備えて、非常食をしっかり用意する事で被災しても大丈夫なようにしておくと共に買いだめを防ぐのがよい。 Fさん
- ・被災者のことをカウンセリングできるようになりたい。 Gさん
- ・目撃者である自覚を持つことと、きっかけになること Hさん
- ・震災があったことを頭の片隅に置きつつ、残りの人生を楽しみたい！ Iさん

### D班 伝える

- ・支援とは一回きりではなく継続すること。 Jさん
- ・今回ボランティアを通して、TVなどのメディアが報じている求めているものと、現地の求めているものでは、多少の違いがあるものだと感じた。しかし、すべてに共通して、思いやりがあれば大きさに関係なく助けになるのではないのかと思った。 Kさん
- ・3.11を生きてきた人に対して、本当に役に立ったといえることができたとは言えないかもしれない。でも南三陸に住む人々の、未来の笑顔になるようにかつて笑顔を与えていたひまわりを自分の手で刈ったことを決して忘れない。 Lさん
- ・光景を見て壮絶。
- ・私たちはボランティアで期間は限られているけど被災地の人たちはもっと長い時間をかけて、続けていかなくてはいけない状況だと思った。「わたしたちだったら...」と考えると、へこたれる。
- ・家に帰ったら農作業を頑張ろうと思った。
- ・津波の映像を見て、自分の家族がそこにいたらと考えたら涙が出てきた。それくらい衝撃的。 Mさん
- ・壊滅的な街を見て、ショックも受けたけれど「元はどんな所でどんな風景だったんだろう」という疑問のほうが強く感じました。一度でもこの街に来たことがあれば、もう少しこの街について知っていたら、もっと被災者の方の気持ちを理解したり、現状の悲惨さを感じることができたと思います。それは、家でニュースの映像を見ているときには全く思わなかったことです。実際にこの街に来てみて荒れている街を見て、この場所に住んでいた方々に会って、素直に「本当のこの街の姿を見たい」と思いました。 Nさん
- ・現地の人たちの話をきいたりして感じたのは、人間のたくましさでした。大きな被害にもあわれたにも関わらず、そこで自分たちのできることを探して生活している現地の人々がとても大きく感じました。 Oさん